（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

２０２５　年度（令和７年度）学校評価自己評価表

誠之中学校区	校番２１	福山市立箕島小学校

最終更新日	２０２５年（令和７年）５月１日

Ⅰ　福山市

ミッション　福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

分析データをもとに、授業改善に向け、校区で取り組んでいることが伺える。
教職員が一層やりがいを持ち、児童生徒個々の学習意欲を醸成できるような更なる取り組みを期待する。

児童生徒の現状

・地域から学び、理解し、つながろうとしている子どもが増えている。
・相手意識を持った行動が不十分。
・学びへの意欲が低い児童生徒が一定数いる。
・長欠児童生徒の割合が高い。

育成する力 資質･能力	主体性			
	知識・技能	思考力・判断力	表現力	自立・共生
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自らに誇りを持ち、夢と目標に向かって頑張る児童生徒			
中学校区として統一した取組等	研究主題：自ら考え学ぶ教育活動の創造 校区共通のSDGｓ：11　住み続けられるまちづくり			

Ⅲ　自　校

ミッション

チーム「み」「の」「し」「ま」　Challenge　&　Smile
～「み」んなで育ちあい　「の」びのび学びあい　「信」頼しあい
「ま」なざしを共有しあい～　相手を想い　協働して解決に挑む

学校教育目標

自ら伸びる子どもの育成

現　状

＜児童生徒＞
・学習において、「選択すること」「対話しながら学ぶこと」「追究すること」の意識が高い。
・日常的に異学年交流が活発で、上級生が中心となり活動を工夫したり、下級生をリードしたりしている。
・地域の協力を得ながら教育活動を進めている。児童も地域行事に積極的に参加している。

＜授業＞
・自分の考えを豊かに表現したり、友達の考えのよさを受け止めたりできる児童の育成の目指し、全職員で教育活動の改善に取り組んでいる。
・児童の学習意欲と学力の定着へとつながるように、教材研究や授業構想を中心に授業改善を進めている。

育成する力 資質･能力		主体性			
		知識・技能	思考力・判断力	表現力	自立・共生
めざす子ども像	低学年	○知りたい情報を人に聞く・本で調べるなどして収集することができる。	○自ら課題を見つけ、事象を比較すること等を通して、課題を解決することができる。	○自分の考えや意見を、わかりやすく伝えることができる。	○自分の考えを持つことができる。 ○進んで集団生活を行い、地域に愛着を持つことができる。
	中学年	○目的に応じて情報を工夫して収集し、情報を選んで、活用することができる。	○自ら課題を見つけ、事象を比較・分類すること等を通して、課題を解決することができる。	○自分の考えや意見を、三角ロジックを活用してわかりやすく伝えることができる。	○自分の考えを持ち、相手の気持ちを考えながら自己を表現することができる。 ○進んで集団生活を行い、地域に愛着を持つことができる。
	高学年	○多様な視点から情報を収集し、情報を選んで、経験・知識と結びつけて活用することができる。	○自ら課題を見つけ、事象を比較・関係付け・分類すること等を通して、協働して課題を解決することができる。	○相手や目的に応じて自分の考えや意見を、三角ロジックを活用して説得することができるように伝えることができる。	○自分の考えを持ち、相手の気持ちを考えながら自己を表現し、互いの存在や立場を尊重しようとしている。 ○進んで集団生活を行い、地域に愛着を持つことができる。

研究	テーマ	意欲的な学びの創造 ～自分の考えを適切に「表現する」、友達の考えを「受けとめる」子どもの育成をめざして～
	内容等	・子ども一人一人が自分の考えたことを伝えるために「表現したい」、友達がどうしてそう考えたのかを「聴きたい」という思いが生まれる授業、子どもが意欲的に学びに向かい、学ぶことを楽しんでいる授業を目指す。
めざす授業の姿		・子ども一人ひとりが、自分の考えたことを伝えるために「表現したい」、友達がどうしてそう考えたのか「聴きたい」という思いが生まれる授業 ・子どもが意欲的に学びに向かい、探究的な学びが生まれる授業 ・子どもが学び合い、学ぶことを楽しんでいる授業 ・子どもが友達の考えを聞いて、自分の考えを深めたり広げたりすることができると感じる授業

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立箕島小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
5	学び続ける 授業の創造	★	継続	児童の主体的な学びのへの意欲を高めることで、基礎学力を定着させる。 【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体性】	・「子どもの論理」を大切にした授業づくりを行う。 ・児童が自身の学びを自覚する場を設定する。 ・授業づくりポートフォリオを活用して、児童の実態を見取り、指導に生かす。	・「学ぶことが面白い」「次の課題が見つかる」「友達の考えを聞いて、自分の考えを深めたり広げたりすることができた」と感じる児童を80%以上にする。（児童アンケート） ・「児童の振り返りを見取り、授業改善に生かしている」「学んだ内容を自身の授業改善に生かしている」とする教職員を80%以上にする。（教職員アンケート）									
1	心と体の健康	★	新規	児童の生活習慣の見直しと体力の向上を図る。 児童の自己肯定感を向上させる。 【思考・判断・表現】【自立・共生】	・読書旬間の期間に合わせて、生活振り返り習慣を設ける。 ・生活振り返り習慣には、生活リズムカードを活用して、自分の生活を振り返る。 ・学級懇談会等で、生活習慣について家庭に呼び掛ける。 ・目標設定をし、達成に向けて取り組み、達成度を上げることで、自己肯定感を上げていく。	・児童アンケートで「メディア2時間以内、家庭学習1時間以上できた」児童を80%以上にする。 ・「目標に向かってチャレンジできた」と感じる児童を80%以上にする。（児童アンケート）									

1	特色ある教育活動	★	新規	社会に開かれた教育課程を実現する。 児童の心と行動力を育成するために、異学年での教育活動を工夫する。	・地域の「人・もの・こと」を活用した授業計画を位置づける。 ・児童が6年生を中心に、異学年で掃除や学校行事を行うことができるよう位置づける。	・授業のねらい、児童に付けたい力を明確にして、ゲストティーチャーと共有し取り組むことができたとする教職員を70％以上にする。(教職員アンケート) ・「縦割り班で他の学年と力を合わせて掃除している」と実感できた児童を85％以上にする。（児童アンケート）										
5	全ての職員が働きやすい学校づくり		見直し	教職員を笑顔や元気にするために、働き方改革を推進させる。	・週一回学年会に時間を設け、学年団で授業や行事のことについて話し合う場を設ける。 ・業務改善委員会にて、業務の見直しを行う。	・学年団で児童のことや行事について交流する時間を設定し「見通しを持って仕事ができた」と感じる教職員を85％以上にする。（教職員アンケート） ・児童と向かい合う時間が確保できている職員を85％以上にする。（教職員アンケート）										

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。